亀の恩返し

行方市

むかし、北浦村（現在の行方市）に、原政右衛門（はらまさえもん）という人が住んでいました。

ある日、政右衛門が近くの亀尻池のそばを通りかかると、何やら子供たちが集まって、一匹の亀をつつきまわして遊んでいたのです。

気の毒に思った政右衛門は、「これこれ、いじめちゃいけないよ。これで私にその亀をゆずってくれないか」といって、持ち合わせのお金を子どもたちに渡して亀を受け取り、池に放してあげました。

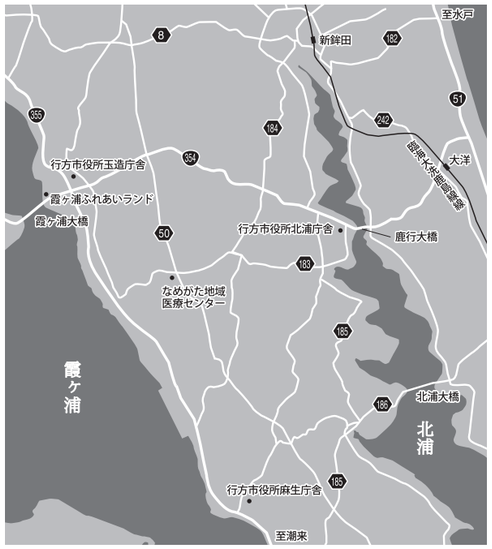
それからしばらくして、政右衛門が、山に木を伐りにでかけた時のことです。切株につまずいて転んだはずみに、胸にとがった小枝を刺してしまった政右衛門は、自分で小枝を引き抜いて、やっとの思いで家に帰りました。そしてすぐに傷の手当てをしましたが、奥の方にまだとげの先が残っているらしく、痛みでその夜は眠れませんでした。明け方になって少しうとうとした時、政右衛門の夢まくらに、一人の白髪の老人があらわれました。

「私は、この前、あなたに助けていただいた亀尻池の亀です。あの時は、本当にありがとうございました。命の恩人であるあなたが苦しんでいるのを見て、せめてもの恩返しになればと思い、まいりました。これからとげ抜きの秘薬をお教えしましょう」と作り方をこと細かに語ったのです。

「これからはこの秘薬を使ってとげで困った人を助け、家伝薬（かでんやく）としなさい」と言うとすっと消えてしまいました。目を覚ました政右衛門は汗びっしょり。半信半疑ながら「ふしぎな夢だが、とにかくためしてみよう」と家の者に薬草を集めさせ、薬を作り飲んでみました。すると、次の日の朝には痛みはうそのように消え、胸からとげの先が出ていました。そのとげをぬくと、傷もすっかり治ってしまいました。

それからというもの、政右衛門の薬はよく効くと評判になり、たくさんの人々を助け、感謝されたということです。

〈参考文献〉北浦の昔ばなし（小沼忠夫著）／茨城の伝説（茨城民族学会編）



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215（大代） https://www.ibaraki-isuzu.co.jp